大

高円山で行われる大文字送り火
先の大戦で亡くなられた英霊を供養し、
世界平和を祈る火の祭典
「大」の字は108つの火床を組む
聖武天皇が離宮を営まれた地、
大安寺の聖僧が開いた霊山、
また、護国神社光背の御神体の位置に
ふさわしい奈良の中元行事

影媛が歩いた恋の道

山の辺の道地図

物語は山の辺の道を散策する4人の女性が立ち寄った和邇下神社で不思議な体験をすることから始まる・・

（この地図はイメージで作成したものです）

影媛椿

この劇の第３景で登場する海石榴市(つばいち)は古代は交易の要所であり、若い男女が集まり求愛の歌を掛け合う歌垣が行われていました。そのころの周辺は椿が群生していたそうです。
上田さん一家は長年かけて自分の山を椿山にされ、そこで生まれた新種の中の１つ「影媛椿」を今回の公演の記念に「なら１００年会館・時の広場」に植樹させていただきました。

劇団 高円　次回公演予定　　劇団員募集

悲恋の女流歌人

大伴坂上郎女（おおとものさかのうえのいらつめ）

奈良朝の最盛期に奈良東部の坂上の里に住んだ、悲恋の女流歌人。風雅武人の大伴旅人とは異母兄。万葉集編纂人とされる大伴家持の叔母にあたり、家持の歌の才能に多くの影響を与えた。彼女は８５首を万葉集に載せるが、情熱と聡明さを兼ね備え、また恋情の歌が多く自然の情景を愛の歌に昇華させている。

上演に寄せて　脚本・演出　ねがい叶

私が、この作品を書き演出をさせて頂くことになった経緯は２００８年の夏に白毫寺公民館の夏祭りで地元の方々と合同で上演した「水戸黄門・山の辺漫遊記」という寸劇の脚本と演出をした事から始まりました。以降、白毫寺町の自治会の役員の方たちとの交際が始まり、その後、「山の辺の道・奈良道を考える会」をご紹介頂く中で「日本最古の国道と呼ばれる道がこの奈良にはあり、古代から多くの歌人によって詠まれている。この周辺に登場した人物を数えると、約１，０００人にも達する」・・・。今まで日本書紀も古事記も万葉集も学校の歴史や古典の授業でほんの少しだけしか学んだ事がなく「はあ、そんな事があったんだあ・・・」とさして強い興味もなく生きて来た私はどこか他人事のようにお話を聞いておりました。　ある日「ねがいさん、我々はこの山の辺の道を全国にアピールしていく為に『高円山に陽を当てる会』を結成し、この道に残る話を舞台化して行く事にした。ついては、その脚本と演出をお願いしたいんや」と。「それでな、この道に残るエピソードの中で一番有名なのが『影媛』やねん。」　興味のあることには、とことんのめりこむがそうでも無い事にはまるっきし・・・という性格の僕には大変な依頼でした。元になる「影媛」のエピソードはなるほど面白い。さてこれを戯曲化し舞台で上演するとなると・・・問題は影媛役にふさわしい女の子が見つかれば後はプロの役者を数人集めればなんとかなるでしょう？」

「何言ってるねん。市民の手作りでやるねんから出演者も市民から募集するねん、プロの役者を呼ぶ予算なんかない。」（長い沈黙）「わかりました。では素人の方が参加されるのであれば、上演まで出来るだけ時間を取って下さい。発声の基本から指導しますので出演者を一般公募し、その集まった顔ぶれを見てから脚本を仕上げます。」脚本を書く上でのコンセプトは市民から広く一般公募をする前提として子供から大人までの登場人物および配役を考える事。僕と同じように「歴史にあまり詳しくない方が見ても、わかりやすい導入を意識する事」の２点でした。役員の方々の努力の甲斐があり今公演には奈良市民の小学生からシニアの方まで２９名が集まりました。演出的には「いい芝居を創る」ことの一言につきます。「いい芝居とは何か？」僕は芝居はアンサンブルである以上「思い」の共有にあると考えています。「みんなで良い舞台を創りたい！」という思いを一つにして上演出来た時、僕らの思いは必ずや観客の皆さんに伝わるものだと信じております。決して上手い芝居が感動を呼ぶとは限らないように・・・。素人集団に上手い芝居はできませんが、いい芝居は出来る！出演者の皆さんの目がキラキラと輝き、嬉々とした表情を見せ、のびのびと躍動感に満ち溢れた舞台となるように助力する。それが私の役割で、私のペンネームねがい（願い）叶（叶う）ことなのです。

高円山に陽を当てる会実行委員会　http://takamadoyama.com　mail: info@takamadoyama.com